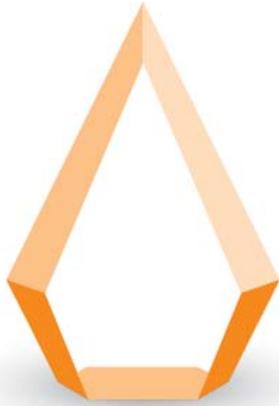


スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド
愛称:ベスト・アルファ

マンスリーレポート

お知らせ

WINNER OF THE 2016
THOMSON REUTERS
LIPPER FUND AWARDS
JAPAN

スパークス・アセット・マネジメント株式会社が、トムソン・ロイター選定による「リップパー・ファンド・アワード・ジャパン 2016(最優秀運用会社株式部門)」を3年連続で受賞しました。

株式部門での3年連続受賞は、GDP上位5ヶ国では史上初！！

「リップパー・ファンド・アワード・ジャパン 2016」は、世界各都市で開催している「Lipper Fund Awards」プログラムの一環として行われ、日本において販売登録されている国内および外国籍ファンドを対象に、優れたファンドとその運用会社を選定し、表彰するものです。選定/評価に際しては、リップパー独自の投資信託評価システム「リップパー リーダーレーティング システム (リップパーリーダーズ、Lipper Leaders)」の中の「コンシスタントリターン(収益一貫性)」を用いています。

リップパー・ファンド・アワードの評価の基となるリップパー・リーダーズのファンドに関する情報は、投資信託の売買を推奨するものではありません。リップパー・リーダーズが分析しているのは過去のファンドのパフォーマンスであり、過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではないことにご留意ください。評価結果は、リップパーが信頼できると判断した出所からのデータおよび情報に基づいていますが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。

※当表彰は、スパークス・アセット・マネジメント株式会社が受賞したアワードであり、当ファンドの受賞ではございません。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写をすることを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。



スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド
愛称:ベスト・アルファ

マンスリーレポート
基準日 平成28年12月30日

【運用実績】

	過去のパフォーマンス(%)		直近の分配実績(円)	
	ファンド	TOPIX配当込		
過去1カ月間	0.94	3.47	第10期 2012/03/12	0
過去3カ月間	6.43	14.95	第11期 2013/03/11	0
過去6カ月間	6.28	23.15	第12期 2014/03/10	300
過去1年間	0.65	0.31	第13期 2015/03/10	0
過去3年間	5.26	23.96	第14期 2016/03/10	0
設定来	101.21	76.44	設定来累計	1,300

※決算期に収益分配があった場合のファンドのパフォーマンスは、分配金(税金控除前)を再投資することにより算出される収益率です。従って実際の投資家利回りとは異なります。

【ロング・ショート別構成】

	比率(%)	銘柄数
ロング	64.1	48
ショート	-30.2	45
債券	0.0	0
キャッシュ等	66.1	—

※比率は対純資産総額

【市場別構成(ロング)】

市場	比率(%)
東証1部	54.3
東証2部	0.0
ジャスダック	3.5
その他	6.3

※比率は対純資産総額

【業種別構成(ロング)】

業種	比率(%)
機械	9.0
不動産業	7.1
サービス業	7.0
小売業	6.3
電気機器	5.7
その他	29.0

※比率は対純資産総額

※上記記載のうち、運用実績、基準価額推移以外は当ファンドが投資するマザーファンドに関する情報です。

【基準価額・純資産総額の推移】

基準価額	解約価額	純資産総額
18,464 円	18,409 円	8.23 億円

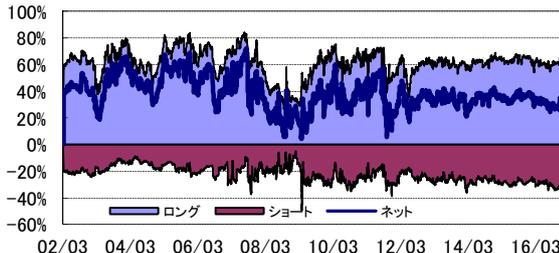
ハイ・ウォーター・マーク: 18,949 円

※基準価額がハイ・ウォーター・マークを超えると実績報酬が発生します。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



※基準価額は信託報酬・実績報酬等控除後です。
※分配金再投資基準価額は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。
※当ファンドはTOPIX(配当込み)をベンチマークとするものではありません。
※過去の実績は将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

【ロング・ショート比率推移(設定来)】



【組入有価証券上位10銘柄(ロング)】

	銘柄	業種	比率(%)
1	三菱重工業	機械	2.8
2	ニトリホールディングス	小売業	2.6
3	富士通	電気機器	2.5
4	ピーシーデポコーポレーション	小売業	2.4
5	大同特殊鋼	鉄鋼	2.3
6	サンフロンティア不動産	不動産業	2.2
7	ペプチドリーム	医薬品	2.2
8	UTグループ	サービス業	2.2
9	SMC	機械	2.2
10	学情	サービス業	2.1

※比率は対純資産総額

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写をすることを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。



スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド 愛称:ベスト・アルファ

マンスリーレポート
基準日 平成28年12月30日

ファンド・マネージャーのコメント

【市況状況】

12月の日本株式市場は年内最後の日米欧各中央銀行の金融政策発表のイベントを消化し10月と11月に続いての上昇となりました。

月の前半は石油輸出国機構(OPEC)の減産合意によりNY原油先物市場が大幅高になった事を受け日経平均株価も窓を開けて高く始まりました。4日に実施されたイタリア国民投票で憲法改正が否決され、反EUの機運が欧州各国に広がり、政治の混乱を招きかねないとの懸念から、いったん世界的にリスクオフに転じる場面もありましたが、逆に8日に控える欧州中央銀行(ECB)理事会で金融緩和が継続されるのではないかと期待の高まりと、実際に理事会後ドラギ総裁が量的緩和(QE)プログラムの延長及び月々の購入額縮小を発表したことから欧米株が大幅伸伸びました。その後、米連邦準備理事会(FRB)が14日に米連邦公開市場委員会(FOMC)で1年ぶりの利上げを決め、同時に発表したFOMC参加者の金利見通しでは2017年中に市場の想定を上回る3回の利上げを見込んでいることがわかると、米国株はいったん弱含んだもののその後は落ち着きを取り戻し底堅く推移しました。またFOMCの決定を受けて米国との金利差の拡大観測から円はドルに対して117円台まで急落しました。これらの動きを受け日経平均株価は16日までに終値ベースで9日間続伸しました。

月の後半には20日に日銀の金融政策決定会合で金融緩和の現状維持を決めた一方、景気の総括判断を小幅に前進させたことが買いを促し日経平均株価は19,592.90円と年初来高値を更新するものの、海外がクリスマスシーズンに入ると、11月の米国大統領選挙以降20%近く値を上げたこと等の理由から市場の商いが薄い中でおいしい売りに押され、最終的には19,114.37円で2016年の取引を終了しました。

12月の日本株式市場は、前月末比でTOPIX(配当込み)がプラス3.47%、日経平均株価はプラス4.40%となりました。東証33種類の騰落率ベスト3は石油・石炭製品、証券商品先物、水産・農林業になった一方で、ワースト3はその他商品、ゴム製品、パルプ・紙となっています。

12月の第3週までの東証名証投資部門別売買動向(月間)では、海外投資家は約4,501億円及び信託銀行は約1,852億円の買い越しに対し、個人投資家は約1兆1,265億円の売り越しとなりました。海外投資家は3カ月連続の買い越しとなりました。年間を通してみると信託銀行の約3兆4,479億円の買い越しに対し、海外投資家は約3兆7,212億円及び個人投資家は約3兆5,581億円の売り越しとなりました。

【運用状況】

12月の当ファンドは、ニトリホールディングス、ピーシーデポコーポレーションなどが上昇し、パフォーマンスに対してプラスに貢献しました。

ニトリホールディングスは、第3四半期決算が市場の予想を上回ったことに加え、今期より出店を加速させている都心店舗の売上高が会社の計画以上に推移していることが好感され株価は上昇しました。ピーシーデポコーポレーションは、8月から大きく報道された顧客トラブルによる販売の混乱を懸念して前月まで大きく株価が下落していましたが、コンプライアンス体制を強化し品質管理部門を新設するなどの改善策の実行を表明した事などにより、既存店売上が底打ちしたことから株価は上昇しました。

一方、SMC、任天堂などが下落し、パフォーマンスに対してマイナスに影響しました。

SMCは、一部の調査会社によるネガティブなレポートの発表によって株価は下落しました。当ファンドでは同社の高い市場シェア、収益性の高さ、工場の自動化・省力化に資する製品内容を高く評価していることから株価の下落をチャンスと捉え、投資ウェイトを高めました。任天堂は12月にサービスが開始されたスマートフォン向けゲーム「スーパーマリオラン」に対する期待から前月までは上昇していましたが、当ゲームに対する評価が予想を上回るものではなかったことから、好材料出尽しとなり株価は下落しました。

【運用方針】

日本株式市場は上昇を続けています。きっかけは米国大統領選でのトランプ氏勝利でしたが、米国だけでなく日本や中国でも経済の好調さを裏付ける経済指標が次々に発表され、世界景気が好循環に入り始めたことを確認し、先行きに対する安心感が高まっています。

トランプ氏が勝利した以降の市場の反応は、2012年の第2次安倍内閣発足当時の状況とよく似ているように思われます。タイミング良く経済環境が好転の時期にあたること、政策に対する期待によって長期的な成長性に対して楽観的な見通しが広まり株式市場や為替市場、金利市場が大きく反応している点などです。前月に続き日本株式市場も大きく上昇していますが、短期的視点ではなく、長期的な枠組みの変化と捉えて市場の推移を注視します。

雇用環境の逼迫がより一層進んでいます。厚生労働省が発表する有効求人倍率は25年ぶりの高水準に達しバブル期のピークに達しつつあります。日本の少子高齢化を背景にこの流れは構造的に続くと考えられます。当ファンドで投資を行っているUTグループや学情では求人市場の好調さが事業機会の拡大と事業の重要性の増大により、今後も収益拡大が続く見通しですが、同時に人件費上昇による企業収益へのネガティブな影響も増していくと考えています。小売業では人手不足による営業時間の見直しなど実際の事業活動にもマイナスの影響が表れています。当ファンドでは、パート・アルバイトの比率が高く収益性が低いスーパーなどの小売業には長期的に経営の重荷になると考え、ショート投資を行っています。

市場が上昇し楽観的な見通しが広まるにつれ、ショート投資の機会が広がってきました。業績や事業価値の裏付けなくポジティブなニュースで将来に対する過度な期待が高まり大きく株価が上昇する銘柄が散見されるようになりました。12月も新規で複数の銘柄にショート投資を開始しています。

株価水準は上昇してきましたが、アナリストが予想する業績予想はまだまだ1ドル100円近辺の円高水準を前提としているものが主流です。現状に即した為替水準への変更や経済環境の好転を考慮した業績予想が浸透することで、株価の割高感は今後は是正されていくものと考えます。企業業績に対する確信度が高まる方向に変化したことを考慮し、ネットポジション(ロングとショートの差引残高)は現在の水準の30%台半ばを維持する方針です。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド

愛称: ベスト・アルファ

ファンドの目的

当ファンドは、主としてスパークス・日本株・ロング・ショート・マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)を通じて、日本の株式に投資し、絶対値での中・長期的な安定的投資元本の成長を目指して運用を行います。

ファンドの特色

1. 株式市場変動の影響を軽減しつつ、安定的なプラスのリターンを目指すロング・ショート戦略の日本株ファンドです。

当ファンドはロング・ショート型のファンドです。ロング・ショート型とは将来の成長が見込まれる株式を買建て(ロング)する一方で、過大評価されている株式を主に信用取引により売建て(ショート)するという2つのポジションを組み合わせる手法です。

※ベンチマークは特に定めないこととします。

2. 進展する「勝ち組」・「負け組」の二極化現象を投資機会と捉えます。

「勝ち組企業」の株を買建て、「負け組企業」の株を売建てます。

徹底したボトムアップ・リサーチにより、こうした二極化現象を的確に捉えることを目指します。

3. 中長期的な日本の株価上昇の機会を捉えるため、買持ちの多い戦略とします。

スパークスでは、株式は中長期的に見て、通常プラスのリターンをもたらすと考えており、また、現状の日本の政治、経済、社会レベルでの構造変化は株式市場の上昇を後押しすると考えています。



原則、買持ちの多い戦略をとります。

(買持ち＝ロングのポジションを、売建て＝ショートのポジションよりも多めに保有する戦略)

4. 徹底的なボトムアップ・リサーチに基づく銘柄評価を行います。

ファンドの仕組み

ファミリーファンド方式*により、金融商品取引所上場株式への実質的投資を行います。

※ ファミリーファンド方式とは、投資者の皆さまからお預かりした資金をまとめてベビーファンドとし、その資金をマザーファンドに投資することにより、その実質的な運用をマザーファンドにて行う仕組みです。



■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。



スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド

愛称: ベスト・アルファ

投資リスク

基準価額の変動要因

当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資等を通じて、株式などの値動きのある有価証券に投資し、有価証券先物取引等を活用することがありますので、ファンドの基準価額は変動します。**従って、投資者の皆さまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。**

株価変動リスク

一般に株価は、個々の企業の活動や一般的な市場・経済の状況、国内および国際的な政治・経済情勢等に応じて変動します。従って、当ファンドに組入れられる株式の価格は短期的または長期的に下落していく可能性があり、これらの価格変動または流動性に予想外の変動があった場合、重大な損失が生じる場合があります。

ロング・ショート戦略固有のリスク

当ファンドは売建て(ショート・ポジション)取引を行いますので、売建てた株式等が値上がりした場合、基準価額が下落する要因となります。また、ロング・ポジションおよびショート・ポジションの双方で損失が生じた場合、通常のファンドにおける損失よりも大きくなる可能性があります。

信用リスク

組入れられる株式や債券等の有価証券やコマーシャル・ペーパー等短期金融商品は、発行体に債務不履行が発生あるいは懸念される場合には価格が下がることがあり、また、投資資金を回収できなくなることがあります。

中小型株式等への投資リスク

当ファンドは、中小型株式等へも投資します。こうした株式は、比較的新興であり、発行済株式時価総額が小さく、売上の少ない流動性の低い株式が少なくありません。その結果、こうした株式への投資はボラティリティ(価格変動率)が比較的高く、また流動性の高い株式に比べ、市況によっては大幅な安値で売却を余儀なくされる可能性があることから、より大きなリスクを伴います。

その他の留意事項

●システムリスク・市場リスクなどに関する事項

証券市場は、世界的な経済事情の急変またはその国における天災地変、政変、経済事情の変化、政策の変更もしくはコンピューター・ネットワーク関係の不慮の出来事などの諸事情により閉鎖されることがあります。このような場合、一時的に換金等ができないこともあります。また、これらにより、一時的にファンドの運用方針に基づく運用ができなくなるリスクなどもあります。

※基準価額の変動要因(投資リスク)は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。収益分配の支払いは、信託財産から行われます。従って純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。



スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド

愛称: ベスト・アルファ

お申込メモ(お申込の際には投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

ファンド名	スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド (愛称: ベスト・アルファ)
商品分類	追加型投信/国内/株式/特殊型(ロング・ショート型)
信託期間	平成14年3月11日から無期限
決算日	毎年3月10日 (休日の場合は翌営業日)
収益分配	原則として毎決算時にファンドの基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わないこともあります。
お申込時間	各販売会社で毎営業日お申込いただけます。お申込時間は、原則として午後3時までとします。 当該時間を過ぎた場合は翌営業日の受付となります。
お申込単位	販売会社が定める単位
お申込価額	お申込受付日の基準価額
解約のご請求	販売会社の毎営業日に販売会社が定める単位で解約を請求することができます。お申込時間は、原則として午後3時までとします。当該時間を過ぎた場合は翌営業日の受付となります。 ※委託会社は金融商品取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときには、解約請求の受付を中止することができます。
解約価額	解約請求受付日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
解約代金の受渡日	解約請求受付日から起算して、原則として5営業日目からお支払いします。

お客様にご負担いただく手数料等について
* 下記手数料等の合計額については、お申込金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。

【お申込時】

■お申込手数料

お申込受付日の基準価額に **2.16%(税抜 2.0%)** を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た額

【ご解約時】

■信託財産留保額

解約請求受付日の基準価額に対して **0.3%** の率を乗じて得た額

■解約手数料

なし

【保有期間中】

(信託財産から間接的にご負担いただきます)

■信託報酬

純資産総額に対して **年率 2.052%(税抜 1.90%)**

■実績報酬

前営業日の基準価額がハイ・ウォーター・マークを上回った場合、当該基準価額と当該ハイ・ウォーター・マークの差額の **21.6%(税抜 20%)** を費用計上。実績報酬は半年毎に信託財産から支払われ、ハイ・ウォーター・マークも半年毎に見直されます。

■その他の費用等

(1) 監査報酬、投資信託説明書(目論見書)や運用報告書等の作成費用などの諸費用(純資産総額に対して上限年率 0.10%(税込))

(2) 有価証券売買時の売買委託手数料等は、ファンドの運用による取引量に応じて異なりますので、事前に料率や上限額等を表示することができません。

【課税上の取扱い】

課税上の取扱いについては投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

【お問い合わせ先】 スパークス・アセット・マネジメント株式会社

ホームページ <http://www.sparx.co.jp/> 電話番号: 03-6711-9200(受付時間: 営業日 9:00 ~ 17:00)

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。



スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド

愛称: ベスト・アルファ

ファンドの関係法人について

●委託会社 **スパークス・アセット・マネジメント株式会社**

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第346号
 (加入協会) 一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会 日本証券業協会
 一般社団法人第二種金融商品取引業協会
 信託財産の運用指図、受益権の発行等を行います。

●受託会社 **三井住友信託銀行株式会社**

委託会社の指図に基づく信託財産の管理等を行います。なお、信託事務の一部につき日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社に委託を行います。

●販売会社 **下記一覧参照**

ファンドの受益権の募集・販売の取扱い、一部解約請求の受付、一部解約金・収益分配金・償還金の支払いの取扱等を行います。

販売会社	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
池田泉州TT証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長 (金商)第370号	○			
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長 (金商)第2251号	○	○	○	○
SMBCフレンド証券株式会社※1	金融商品取引業者 関東財務局長 (金商)第40号	○			○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長 (金商)第44号	○	○		○
ぐんぎん証券株式会社※2	金融商品取引業者 関東財務局長 (金商)第2938号	○			
ごうぎん証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長 (金商)第43号	○			
株式会社荘内銀行	登録金融機関 東北財務局長 (登金)第6号	○			
常陽証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長 (金商)第1771号	○			
高木証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長 (金商)第20号	○			
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長 (金商)第140号	○	○		○
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長 (金商)第1977号	○			
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長 (金商)第165号	○	○	○	
みずほ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長 (金商)第94号	○	○	○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長 (金商)第195号	○	○	○	○
スパークス・アセット・マネジメント株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長 (金商)第346号	○		○	○

※1 SMBCフレンド証券株式会社では、2016年2月1日以降、新規の買付を停止しており、換金のための受付となります。

※2 ぐんぎん証券株式会社は、1月12日(木)より取扱開始

【お問い合わせ先】 スパークス・アセット・マネジメント株式会社

ホームページ <http://www.sparx.co.jp/> 電話番号: 03-6711-9200(受付時間: 営業日 9:00 ~ 17:00)

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。